


ふりがな 氏名	たかやま ちほ 高山 千穂	都道府県	岡山県	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山大学教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育コース ・国立吉備青少年自然の家ボランティアスタッフ「ウーリーズ」一員 			
私のESD活動	体験の風をおこす			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

今年の春に国立吉備青少年自然の家のボランティアスタッフに登録しました。5月にはボランティア養成研修の講義や演習を受けました。特に講義で「自然体験学習の意義」について考えたことが心に残っています。その講義では自然体験学習について2つの気づきがありました。まず、自然体験学習は自主性や協働性を高めるものだということです。子どもたちが、親から離れ電気器具が使えない自然の中で生活するには自分たちで考え行動を起こすことが求められます。またそのために仲間と協力する必要があり、仲間づくりやコミュニケーション能力も培われるといいます。2つ目に自然体験学習が自己発見の場であるということです。実際に体験することを通して自己潜在能力に気づくことができます。最近の若者は自己肯定感の低さが問題とされていますが、自然体験学習はその解決の糸口になるかもしれません。自然体験学習で得られるものは将来持続可能な社会を築くためには欠かせません。自主的に社会の現状課題を考え、仲間と意思疎通を図りながら行動していかなければならないからです。国立吉備青少年の家でのボランティア活動はこれからの社会を担う人材を育成する場だと思いました。

8月には、小学校中学年を対象にした3泊4日のキャンプに参加しました。14kmのフォトルングウォークや標高397mの鬼ノ城登山など厳しいプログラムを子どもたちと一緒に取り組みました。始めは自分のことで精いっぱいだった子どもたちが仲間のために頑張れるようになっていく姿を間近で見ることができ、子どもたちにとってもボランティアにとっても実り多き4日間となりました。

○「国立吉備青少年自然の家」 <https://www.facebook.com/kokuritsukibi/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

私は将来発達障害を持つ子どもにかかわる仕事がしたいと思っています。発達障害をもつ子どもは優れた才能をもっているにも関わらずそれを発揮できずにいます。それどころか周囲からの十分な理解が得られず自己肯定感特に低いのが現状です。これでは持続可能な社会を創る人材は育ちません。私は子どもたちにとって学校での評価が絶対視されていることが問題の原因になっていると考えます。そこで私は将来、子どもたちに自分の居場所は学校以外にもあるということが伝わる活動がしたいです。例えば、子どもたちの優れた記憶力や好きなことに対するこだわりを社会貢献に活かし、人から能力を認められる体験をたくさんさせてあげたいと考えます。そのために今できることとしては、国立吉備青少年自然の家でのボランティア活動に積極的に参加することです。キャンプ参加者の中には発達障害を持っている子もいるかもしれません。するとそのキャンプでは障害をもつ子もたない子が協働して生活する機会が生まれます。キャンプの中での共同作業やコミュニケーションをとおして障害の有無にかかわらず他者理解力をつけさせたいです。また、野外活動をとおして学校にいるだけでは気づけなかった自分の能力を発見できるかもしれません。私はボランティアスタッフとして、その能力に気づきみんなで認め合える環境を作り、子どもたちに成功体験をさせてあげたいと考えます。